

訪れるたび、好きになる。福井県池田町

いけだごのみ

vol.20 2022-2023 Oh!Noh!IKEDA号



伝統の舞を受け継ぐ人々
池田の能面アラカルト
いにしへの池田へタイムトリップ

伝統の舞を受け継ぐ人々

五穀豊穡や息災延命の願いをこめて、毎年奉納される「水海の田楽・能舞」。舞人も囃し方も水海地区の住人で、冬の間に練習を重ねた舞を2月15日に披露する。地域の方々はこの行事に関わる三ッ本家の方々にお話を聞いてみました。

七百年以上の伝統を誇る「水海の田楽・能舞」とは？

毎年2月15日「鵜甘（うかん）神社／MAP 1」にて、水海地区の住民が舞を奉納する「伝統行事」。由来は鎌倉時代に遡る。5代執権・北条時頼が池田に来訪。雪のため足止めされた時頼を慰めるため村人たちが「田楽」を舞い、お礼に時頼が「能舞」を教えたのが始まりと伝えられている。庶民の田遊びから発展した「田楽」、貴族のたしなみとされた「能舞」、両方の舞が奉納されるこの伝統行事は、国の「重要無形民俗文化財」に指定されている。



毎年2月15日の13時から17時頃にかけて、鵜甘神社の拝殿で田楽四番と能舞五番が奉納される

自分は水海の人間だ、と思わせてくれたのがこの行事

「水海の田楽・能舞」で、トリを飾る演目が「羅生門」。渡辺綱（わたなべのつな）による鬼退治の武勇伝で、綱と鬼による躍動的な舞が、約10分間繰り広げられる。

三ッ本一雄さんがこの「綱」役に抜擢されたのは、東京から池田に帰郷して間もない29才、昭和58年のこと。

「中学まで水海にいたので、もちろんこの行事は知っていたけど、自分にこの役が回って来るとは思っていなかった」と語る一雄さん。

「昔前の役の割り振りは世襲制に近く、限られた「家」が担うことが求められる「綱」の舞は「難しいけどやりがいがあった」という。舞方を退いた今も「座うたい」として、「水海の田楽・能舞」を盛り上げている。



現在は「座うたい」として活躍する一雄さん（左）

々

父の舞を見て憧れていた「綱」 思いを込めて舞いたい

そして令和の現在、「綱」の役割は一雄さんの息子、和愛さんに引き継がれている。

お父さんと同じ「綱」役の話が来た時、どう思いましたか？という問いに「素直に嬉しかったと答えた和愛さん。そして小さな声



右が一雄さん、左が和愛さんの「綱（うたい）本」。どちらも羅生門のページには、それぞれが書き込んだ注意点がぎっしり！



三ッ本和愛（かずあ）さん
2017年より「羅生門」の「綱」を務める。
2019年、池田町内に念願のカン
リンスタンド店をオープンした。

三ッ本千代美（ちよみ）さん
田楽・能舞では、バザーや「衣装畳み」を担当。
普段は「こってりコテいけだ」で定食やお弁当作りに勤しむ。

三ッ本一雄（かずお）さん
先々代の「綱」。
現在は「座うたい」を務める。
水海のために、という思いで小水力発電事業を立ち上げ活動中。

田楽・能舞 4つのトリビア

1 舞の師匠はただひとり！

それぞれの舞手が自分の後継者を指名して、一対一で振付を伝授する。師匠以外の人があるこれ口出しするのはタブーとされている。

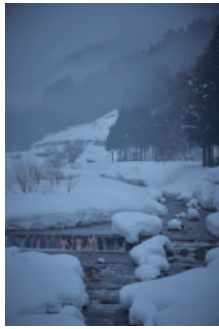
2 面をつけると視界はほぼ0？！

面の目穴は小さく、目の位置とずれるため、視界は非常に狭い。舞手は目を閉じても舞うことができるくらい、体に叩き込み、舞台上に臨んでいる。



3 過酷な禊の儀式とは？

翁（祝詞、三番叟、高砂を舞う3人）は、2月13日から家族とは炊事を別にして、社務所に寝泊まりする。本番の15日はふんどし一枚で、水海川に浸かり身を清める。



4 通し稽古は前日一回限り！

2月14日、拝殿で田楽能舞を最初から最後まで通して行う「場ならし」が行われる。これも神事の一環で、本番さながらの緊張感が漂う。



で「父の舞を見て、憧れていたの」と照れくさそうに付け加えてくれた。

左右の腕をピンと広げ、足を踏み鳴らしながら悠々と移動する「綱」の動作は思った以上に難しく、足拍子を練習しすぎて捻挫したこともあるのだとか。

「日常生活の中で絶対しないようなポーズや動きが多いですからね。でも、一つ一つの動きや音に意味がある。神様に捧げる舞なので、いい加減にはできないんです」と、和愛さん。

「はじめは見よう見まねで、間違えないよう舞うことで精一杯。

でも、2年、3年とたつと、だんだん役を理解したい、役を表現したい、という気持ちが芽生えてきました」

10年ですらようやく一人前になると言われる舞方。父曰く「最初はハラハラしたけど、最近は安心して見られるようになった」という和愛さんの舞が、今後どのように進化していくのか、楽しみだ。



両手を大きく広げ、堂々たる姿で「綱」を舞う和愛さん

田楽・能舞は地域の誇り。

これからも守り続けたい

古式に従って、田楽・能舞の舞人や囃し方、着付けなどは全て男性が行っているが、女性はそのような役割を担っているのか？

一雄さんの妻であり、和愛さんの母である千代美さん曰く、「見学にきた方への振る舞い、バザーにかかりつきり。おでんは2日前から仕込むし、結構忙しいんですよ」

それでも、ラストの「羅生門」の番には、夫や息子の雄姿を見るため、拝殿にかけつける。

「正直言うとな、見てる時は楽しみより心配な気持ちが多いの。神事だから、間違いがあってはならないと思うし、無事に終わりますように、って心で手を合わせてる（笑）」



舞が終わった後、衣装を畳んだり、夏に陰干しするのは地区の女性が担っている

少子高齢化が進む中、後継者不足の悩みは尽きない。「水海の田楽・能舞は、地域の誇り。途絶えさせてはいけなものの」と力強く断言した千代美さん。

和愛さんも「長い歴史の一端を自分が担うことで、より伝えていくことの大切さを知った」と語る。「水海以外の住民も含めて、この行事に関心を持つ人を増やしたいし、人口が減っても継承していける道を考えて」と一雄さん。七百年以上の年月を経て受け継がれてきた「水海の田楽能舞」。数百年後の未来でも、ここに住まう人々が誇りを持って舞い続けていることを願いたい。

イベント情報

2022年8月11日(木・祝)
16:00開場 20:45終演予定

能楽の郷 池田 はづきたきぎのう 葉月新能

池田の惣社「須波阿湊疑(すわあづき)神社」境内のステージにて、薪能の公演を開催。「水海の田楽・能舞」の演目も一部披露される。



開催場所
須波阿湊疑神社 MAP 2
(池田町稲荷13-1)
※雨天時は「能楽の里文化交流会館」に変更。A席の方のみ鑑賞可能。B席の方は払い戻し。

演目
・水海の田楽・能舞より
田楽「鳥とび」
能舞「羅生門」
・鳳来寺田楽より
「惣田楽のこと」
「ろん舞のこと」
・大蔵流狂言「伯母ヶ酒」
(演者 茂山七五三 ほか)
・金剛流能「土蜘蛛」
(演者 金剛永謹 ほか)

料金
・A席
前売3,000円(当日3,500円)
・B席
前売2,000円(当日2,500円)
チケットぴあ、こってりコテいけだ、パリオ、ベル、武生楽市、アル・プラザ鯖江などで販売中

能面・装束の着装体験も
同日開催！
詳しくはこちらを
チェック



池田の能面 アラカルト

室町時代から江戸時代にかけて、池田町を含む「越前国」では、
「越前目家」「大野目家」といった世襲面打師の名家を輩出した。
それらの古面は今でも別格視され、多数の写し（複製）が作られている。
数百年に渡る文化を見直し、新たな伝統へと挑む、現代の面打師たちの思いとは…？

2代目・桑田能守さんは、幼い頃から面打師の父を間近に見て育った。父が指導する能面教室にも「遊び感覚で」出入りしていて、小学5年生の時には「小面（こおもて）」という若い女面を完成させたという。

中学・高校時代は能面作りからは離れていたが、高校3年生の時に選んだ進学先は、美大の立体造形学科。「将



桑田能守（よしもり）さん
父の後を継ぎ、面打師に。能面美術館2代目館長も務める。初心者にも分かりやすい解説で、能文化の普及・振興に努めている。

面打師・越前桑田家の挑戦

面打師・桑田能忍さんが天啓を受けたのは23才、当時住んでいた兵庫県の骨董商で古い能面を見た瞬間だった。「こんなすごい芸術品があるのか」という衝撃と「これが自分の進む道だ」という強烈な思いにかられたという。

それから10数年の修行を積み、現代の名工として名を馳せ、弟子の指導にも勤しむようになった頃、才ある能面師を多く輩出した地で面打ちに取り組みたい、と福井への移住を決意した。

池田町に来てから能忍さんが勢力的に取り組んでいるのが、写し（複製）に囚われない「創作能面」作り。江戸時代から現在まで続く「古面重視」「コピー奨励」といったスタンスを変えたい、という思いがそこにある。

人物と向き合い、魂を打ち込むのが能面師

来、面打師になりたい」という心の炎は消えておらず、より深い造形知識を身に着けるための選択だった。

大学で木彫や石彫を学んだ後、父の下で本格的な面打ちの修行をスタート。現在は「能面美術館」の館長を務めながら、能面教室で生徒の指導、そしてプライベートでは小学生の娘のパパとして、忙しい日々を送っている。

「創作能面を打つ時には、それがどのような人物なのか、表すべき造形は？表情は？など、とことん考えてから挑みます。私の作った能面からインスピレーションを得て新しい作品が生まれる、そんな面を作ってみたいですね」と、穏やかに、しかし意志ある瞳で未来への展望を語ってくれた。

舞台で存在感を発揮する「令和の本面」を



桑田能忍（のうにん）さん
23才で能面に魅せられ、面打師に。1994年に池田町に移住し、能面美術館初代館長も務める。現在は能面美術館の隣の「能面研修館」で創作・指導を行っている。

「そもそも、室町初期に作られたものは全てオリジナルの創作能面だったはず。役者や奏者と相談しながら、自分で造形を考え、思いを込めて面を打っていた。だから面に力がある。面の本来の姿を取り戻したい」

能面師となり半世紀を経た今も、「令和の本面を作る」という思いで、精力的に創作に取り組んでいる。

2022年12月15日まで「創作能面展」開催中！



能面美術館 MAP ③

常時 100 を超える能面が所狭しと並ぶ美術館。「創作能面展」期間中は、桑田能忍さん・能守さんの創作面や、「全国創作能面公募展」の入賞作品を展示。館長の解説も聞きながら一つ一つじっくり鑑賞したい。

大人 300 円、小中学生 200 円
池田町志津原 17-2
10:00 ~ 16:00 (土日祝は 17:00 迄)
火曜 (2022 年 8 月は無休)
0778-44-7757

展示中の創作能面 (一例)



秀吉 桑田能忍作



利休 桑田能忍作



家康 桑田能守作

2022 全国新作・創作能面公募展開催決定！

池田町では定期的に能面作品の公募展を開催している。
2022 年度は 8 月頃に応募要項が発表される予定。
<https://www.facebook.com/nohmenkouboten>にて確認を。

能楽の里に眠る古面たち

各神社に多くの古面が伝わる池田町は、「能楽の里」として知られている。
普段は保管庫に眠る貴重な古面の数々は、年に一度の神事で一般公開されている。

※参考文献「越前池田の古面」（池田町教育委員会発行）

※神事は新型コロナウイルス感染状況などにより中止または規模縮小となることがあります。お出かけ前にホームページ「いい池田.jp」などで最新情報をご確認ください。

うかん 鵜甘神社

MAP ①

西暦 463 年創建と伝わる古社。毎年 2 月 15 日には「水海の田楽・能舞」が奉納される。正午から水海川で禊があり、午後 1 時から 5 時頃まで田楽 4 番と能 5 番が舞われる。徒歩 3 分ほどの「しめ縄会館」近くの川沿いに駐車スペースあり。

池田町水海 52-24

現在も生きた形で
能文化を継承



右:「水海の田楽・能舞」阿まの舞
左:舞が奉納される拝殿



高砂 (たかさご)

江戸初期の面。夫婦和合と天下泰平を祝福する舞で使われる。

阿ま (あま)
当神社で最も古い、鎌倉～南北朝時代の面。豊作を祈る舞で使用。



田村

江戸後期の面。坂上田村麻呂の武勇を示す舞で使用される。



尉 (じょう)

南北朝時代の面。能面製作初期の自由な創意を發揮した作品。



中年の女

室町中期の面。うつろな瞳に悲しみと狂気を感じさせる女面。



天神 (てんじん)

室町末期の面。大正 7 年までの神事では「田村」に用いたと伝えられている。

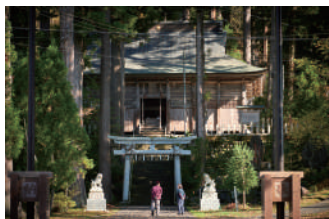
すわあづき 須波阿須疑神社

MAP ②

スワの神とアズキの神を祀る池田の惣社。大正 7 年まで能が奉納されており、現在も毎年 2 月 6 日に「能面まつり」が行われている。この日は午後 2 時から、神社が所蔵する貴重な古面が公開され、参拝者には小豆粥がふるまわれている。

池田町稲荷 13-1

人間味豊かに表現
された能面たち



右:「能面まつり」の様子
左:写真の拝殿のさらに奥に国の重要文化財に指定された本殿がある

はくさん 白山神社

MAP ④

志津原の集落にひっそりと佇む神社。江戸後期までは能が奉納されていた。毎年 2 月 17 日の午後 2 時頃から、当時の能面や狂言面を参拝者に公開する「お面さんまつり」が行われている。駐車場はないので、徒歩 3 分ほどの「能面美術館」前を利用。

池田町志津原 20-23

父尉・翁・黒色尉を
神面として崇敬



右:鳥居の前に杉とケヤキが寄り添う
左:「お面さんまつり」の様子



翁

室町中期の面。黄土彩色が施され、おだやかな笑みを浮かべている。

父尉 (ちちのじょう)
室町初期の面。額には真一文字に切られ、特異な表情が目を引く。



黒色尉 (こくしきじょう)

室町末期の面。鼻柱に皺が刻まれ、歯を数多く見せて笑っている。



鬼神面

時代不詳。神社の伝承と植毛跡から狼の形象化ではないかと推測されている。



右:ピラミッドのような石垣の上に建つ本殿
左:全国的にも珍しいオオカミを祀る神社

ひのみや 日野宮神社

MAP ⑤

他に例を見ない謎の鬼神面

西暦 553 年、欽明天皇の第 3 皇子、臘嘴鳥皇子 (あとりのみこ) が狼を捕らえ、岩窟に封じ込めて祀ったのが起源といわれる。本殿にあった鬼神面は現在、町の文化財として保管されている (一般公開はしていません)。

池田町常安 1-2

いにしへの池田へ

昔ながらの農村風景が今も残る池田町には、何百年も前にタイムスリップしたような雰囲気を感じられる場所が数多くあります。道幅が狭い場所もあるので、自転車でのんびりと廻るのがおすすめです！

タイムトリップ

谷口・稲荷コース

自転車 10 分



幕末の志士の息吹を感じる

善徳寺 MAP 10

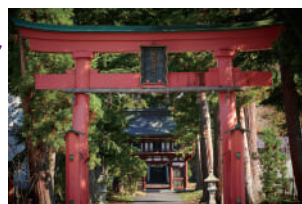
幕末期、尊王攘夷を掲げて決起した水戸の「天狗党」が京都を目指す途中で宿営したお寺。死を覚悟した隊士2名の生き墓と髻（もとどり/遺髪）が残されている。髻の拝観は電話で事前予約を。 池田町谷口36-20 ☎0778-44-6615

江戸時代の暮らしの空間へ

堀口家住宅 MAP 11

江戸時代初期に建てられた民家で、国の重要文化財。中に入ると、雪国らしいがっちりした屋根組みや、囲炉裏が残る土間があり、いにしへの生活を想像できる。入館無料。 池田町稲荷32-17 ☎9:00~17:00 休 荒天時

自転車 2 分



太古から歴史を重ねてきた惣社

須波阿須疑神社 MAP 2

池田で一番大きな神社。室町時代に造営された本殿は、国の重要文化財。境内の奥には樹齢千年以上のご神木「稲荷の大杉」が鎮座する。毎年、2月6日に「能面まつり」を開催。（P5参照） 池田町稲荷13-1



本との出会いとおやつを愉しむ

小豆書房 MAP 12

店主がセレクトした幅広いジャンルの古本と新刊を扱う池田唯一の本屋さん。カフェスペースでランチやお菓子をゆったりいただくこともできる。 池田町稲荷18-4-1 ☎11:30~19:00 休 水・木・金曜※水曜は貸切（予約要）のみ対応 ☎080-2395-1080

自転車 1 分



まちの駅から

自転車 1 分

水海コース

つきたてのお餅で腹ごしらえ

おもちの母屋 MAP 7

季節のおこわやお雑煮など、池田のもち米をふんだんに使ったボリューム満点のランチが好評。おしるこやあべかわなどおもちデザートも美味しい。 池田町稲荷37-8-1 ☎11:00~15:30（ランチは14:00迄） 休 月曜 ☎0778-44-8338



季節のお昼膳890円

自転車 15 分

部子山のふもとに建つ古社へ

鵜甘神社 MAP 1

継体天皇が越前にいた時、「足羽の水源神」として祀られた古社。東方に水源の守護神「部子山」がそびえ立つ。毎年2月15日には国の重要無形民俗文化財「水海の田楽・能舞」が奉納される。（P2・3・5参照） 池田町水海52-24

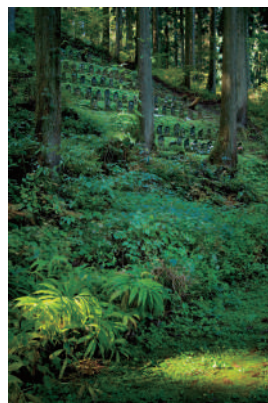


自転車 5 分 + 徒歩 10 分

静かな森の中の石仏を訪ねて

水海の石仏群 MAP 8

森の中にひっそり佇む約90体のお地蔵様は、明治20年頃、石丸藤右エ門氏が四国八十八ヶ所の功德を分かつため、各霊場の土と共に祀ったもの。今も、子孫の方々が維持管理に努めており、この神秘的な景観が保たれている。 池田町水海（湯本味噌前の橋を渡り杉林方面に直進。山道に入って徒歩約10分）



徒歩 10 分 + 自転車 1 分

平日に動ける方はぜひこも!

湯本味噌 MAP 9

創業120年の無添加・天然醸造蔵。手もみで丁寧に熟成させた米麹を使用した味噌は、昔からのファンも多い。平日に行ける方はぜひ立ち寄って。 池田町水海90-9 ☎月曜9:00~17:00、火~金曜13:00~17:00 休 土日祝 ☎0778-44-6582



志津原コース



豊かな自然と歴史を感じる

通行料大人300円、
小中学生200円

かずら橋 MAP 17

深谷美に溶け込む全長44mのかずら橋。昭和初期まで架かっていた吊り橋を1989年に再現したもの。その昔、敵が迫ればすぐに切り落とせるよう作られた、との伝説が残る。戦国の世に思いを馳せながら渡るのも面白い。

☎池田町土合血尾14-7-1 ☎3月下旬～12月上旬9:00～17:00 ☎荒天時、12月中旬～3月下旬 ☎0778-44-6878(池田屋)

庭園を眺めながら手打ちそば

そばの郷 池田屋 MAP 18

地元産そば粉を使用した風味豊かな手打ちそばに舌鼓。窓からかすら橋と庭園を眺めながら、ゆったりとした時間も堪能できる。

☎池田町土合血尾14-7-1 ☎11:00～15:00 ☎月・火曜(祝日の場合は営業) ☎0778-44-6878



自転車 25 分

自転車 10 分

徒歩 1 分

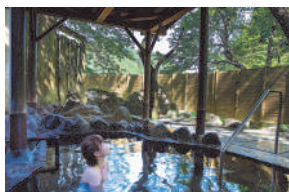
自転車 2 分

徒歩 1 分

幽玄の世界に迷い込む

能面美術館 MAP 3

能楽の里池田町を象徴する施設。室町時代に作られた古面から現代の面打師の作品まで、常時100面を超える能面を展示している。2022年12月15日まで「創作能面展」を開催。(P4参照) ☎池田町志津原17-2 ☎10:00～16:00(土日祝は17:00迄) ☎火曜(2022年8月は無休) ☎0778-44-7757



入浴料大人600円、3歳～小学生300円

昔ながらの手作りきびだんご

ぬくもり茶屋 MAP 19

地元のおばちゃんたちによる手作りおやつのお店。柔らかくほんのり温かい、やさしい甘さのきびだんごは必食。お土産にはかきもちがオススメ。

☎池田町志津原17-2(能面美術館前) ☎4月～11月の土日祝10:00～16:30 ☎月～金曜、12月～3月

きびだんご5本500円



入館料大人300円、
小中学生200円

自転車 3 分

美肌の湯で汗を流そう

渓流温泉 冠荘 MAP 20

日帰り入浴もできる温泉宿。地元でも評判の高い、とろんとした柔らかい肌触りのお湯で、ツルツルスベスベの美肌美人に♪

☎池田町志津原14-17 ☎10:00～21:00(入館20:00迄) ☎第1・3火曜 ☎0778-44-7755



レンタサイクルでのんびりと

まちの駅「こってコテいけだ」MAP 6 で自転車を貸出!

【貸出場所】池田町稲荷 36-25-1

【貸出時間】4月～11月の9:00～17:00

【定休日】火曜(GW・夏休み期間は除く)

【1日料金】電動アシスト1,000円、普通自転車500円

【お問合せ】いけだ農村観光協会 0778-44-8060(土日祝定休)



寺谷・板垣コース

見上げる高さの大仏様にご挨拶

寺谷大仏(西光寺) MAP 13

明治24年に徳井義康上人によって建立された阿彌陀如来像。高さは約5mあり、国土安穩、諸願成就の願いを込めて祀られたもので、町の文化財にも指定されている。

☎池田町寺谷18-14 ☎9:00～16:00 ☎荒天時



自転車 10 分



横一列にお地蔵様がずらり!

寺島の石仏群 MAP 14

旧池田分校の西側の山麓にずらりと並ぶお地蔵様は、西国三十三ヶ所や四国八十八ヶ所霊場を祀ったもの。同じご利益が得られると言われていたので、ぜひお参りを!

☎池田町池田(旧池田分校から西へ、寺島橋を渡った付近)

自転車 5 分

“ここら”でとれた食べ物を頂く

Cafe & Guesthouse ココカラ MAP 15

身近な畑で採れた野菜たっぷりの「ヴィーガン料理」を提供。肉・魚・卵・乳製品を一切使っていないことを感じさせない色彩と美味しさに驚くはず!

☎池田町板垣52-6 ☎木・金11:00～16:00 ※土日は不定期営業 ☎月・火・水曜 ※昼食は予約優先(メール又はInstagram@cggkokoraのDMにて) <https://kokorakara.jp/参照>



自転車 1 分

香り高い珈琲でブレイクタイム

長尾と珈琲 MAP 16

珈琲をこよなく愛する農家が営む週末カフェ。豆を一粒一粒丁寧に選別した自家焙煎珈琲は、体にスーッと染み渡る優しい味わい。自家製ケーキも好評。

☎池田町板垣51-13-3 ☎土日12:00～16:00 ☎月～金曜、農繁期 ☎0778-67-6723



アクセス情報



- 大阪から約3.5時間(名神～北陸自動車道・武生IC下車約30分)
- 名古屋から約3時間(名神～北陸自動車道・武生IC下車約30分)
- 金沢から約1.5時間(北陸自動車道・福井IC下車約30分)

- 大阪駅から特急列車で武生駅まで約1時間40分
- 名古屋駅から特急列車で武生駅まで約2時間
- 金沢駅から特急列車で福井駅まで約50分
- 東京駅から新幹線(米原経由)と特急列車で武生駅まで約3.5時間

※武生駅までは福井駅から池田町までの移動は、
レンタカー(約30分)または路線バス(約1時間)をご利用ください。

●武生駅 ⇄ 池田 福鉄バス 池田線
片道：大人 1,120 円・小学生 560 円
(JR 武生駅～稲荷区間の料金)
※土日祝 1 日乗り放題券もあり
(大人 1,200 円、小学生 600 円)



● **福井駅 ⇄ 池田** **マイバス(町民協働バス)**
片道：大人1,000円・小学生500円
土日祝日は前日17:00までに要予約
0778-44-7730



★印の施設は宿泊できます
詳しくはこちらへ

